

避難行動

土砂災害

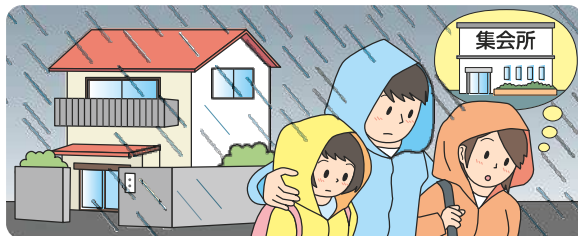
水害

災害から自分の命を守る いざというときの 避難行動は大きく2つ

立ち退き避難(水平避難)

早めの避難行動が大事、少しでも安全な場所へ

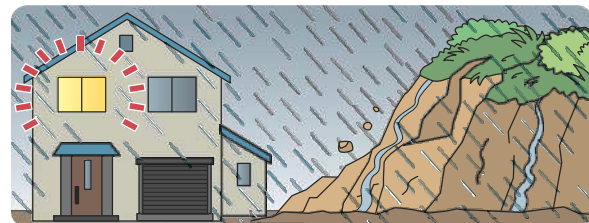
- 原則は指定緊急避難場所への移動
切迫した災害の危険から命を守る場所として
あらかじめ宇陀市が指定した施設・場所
- 移動が危険と判断する場合は近隣の高い建物や
強固な建物などへ移動
自主防災組織や自治会等が開設する自主避難所(集会所)
知人宅 等
- 浸水想定区域外、土砂災害警戒区域外等への移動



屋内での安全確保(垂直避難・待機)

屋外での移動が危険だと判断

- 屋外への移動が危険と判断する場合等は屋内で
安全確保
例：濁流・豪雨
強固な建物の2階以上で崖から離れた部屋で安全確保
- 例：短時間の局地的豪雨
強固な建物の2階以上で安全確保
- 屋内の2階以上の安全を確保できる高さに移動
(垂直避難)
- 自宅でもより安全と考えられる場所にとどまる(待機)



★防災気象情報、避難情報をチェックしましょう。

地震

行動マニュアル

●揺れが大きい場合は 収まってから火の始末を

使用中の電気器具のプラグを抜きます。大揺れの瞬間は火を消すことすら不可能。揺れの最中に火元の上にある吊戸棚などから燃えやすい物や布巾などが落下すると、炎が大きくなり危険です。普段から火元の周辺の整理を心がけましょう。



●出口を確保

建物のゆがみにより開かなくなる可能性があるため、窓やドアを大きく開けて確保します。



●慌てて飛び出さない

道路では屋根瓦や割れた窓ガラス、看板などが落下したり、車が飛び出してくることも。テレビやラジオで情報収集をしましょう。



●室内の移動には履物を

割れたガラスや食器の破片が散乱している可能性があるため、室内の移動には靴やスリッパを履き、手も軍手などで保護をしましょう。



自主防災

災害時要配慮者への支援 地域が一丸となって助け合いましょう！

高齢者や乳幼児、または障がいのある方など、災害時にさまざまな助けを必要とする人たちが、たくさんいます。地域が一丸となって、要配慮者を守るための対策をこころがけましょう。

■高齢者や寝たきりの方

- 緊急時は背負って安全な場所に移動する。
- 不安にさせないように声をかける。

■耳が不自由な方

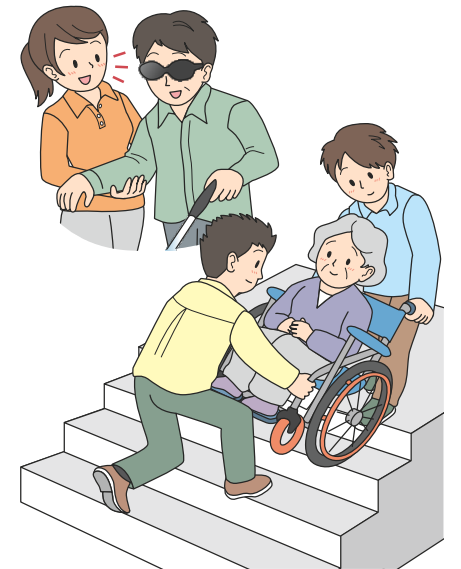
- 話すときは口を大きく動かすようにして、相手にわかりやすいようにする。
- 手話、筆談、身振りなどの方法で、正確な情報を伝える。

■目が不自由な方

- 災害時には声をかけて情報をしっかりと伝える。
- 誘導する場合は、杖を持ったほうの手には触れず、ひじの辺りを軽く持ってもらい、避難を誘導する。

■車イス利用の方

- 階段を使って移動する場合は、必ず2人以上で行い、上りは前向きに、下りは後ろ向きにして移動する。
- 介護者が1人の場合は、ひもなどを利用して背負って避難する。



自主防災組織

自主防災組織を結成し、地域の防災力を高めましょう！

■大規模な災害が発生したら…

大規模な災害が発生した場合、被害を最小限に食い止めるため、行政機関などは、総力をあげて防災活動に取組みます。しかし、被害の規模が大きいほど、行政機関のみの活動では、十分な応急活動ができない場合が想定されます。

■自主防災組織とは

自主防災組織とは、地域の方々がお互いに協力し、災害から自分たちの地域を守るために結成される組織です。いざというときには、隣近所の協力、助け合いが非常に大切です。地震に限らず、風水害や火災など、いつ災害が起こるかわかりません。日頃から、ご近所同士のコミュニケーションを深め、互いに協力しながら、防災活動に取組むことが重要です。

※自主防災組織に関するご相談は、宇陀市総務部危機管理課までお問い合わせください。

阪神・淡路大震災では

阪神・淡路大震災では、倒壊した家の下敷きになったことで、多くの犠牲者が出ましたが、助け出された人の大半が、**近所の方々によって救出**されました。

